

一般質問

今 利 一
(市民連合)

市民の食卓の安全性はいかに

問 中国製ギョーザから1ヶ月少々、事件の解決には至っていない。私たちの想像をはるかに超えた規模で進行している食品の生産、製造段階の海外依存「いかに安く仕入れて、利潤を上げるか」この資本主義原理が貫徹する社会での事件、進まぬ原因究明。食の不安が増している今日、市民の台所を預かる公設地方卸売市場の現状と食の安全性はどのように図られているか。



富良野市公設地方卸売市場

答 中国産品の取扱状況は、平

成19年は、野菜、果実で約20t、生鮮水産加工で約24t。中国産品の残留農薬の調査は、取扱商品に対して、出荷者から試験分析書で安全を確認。安全性の考え方は、生産者、流通業者が責務と役割を果たす事が重要。

問 寿光園の管理を4月から指定管理者に移行するが、今後食の安全性はどう担保されるのか。

答 市場からの食材の購入は、平成19年2月から20年1月まで、全体の46・5%になっている。指定管理者移行後においても管理運営指導の中で地産地消を基本に、新鮮で安全な食材が提供されるよう検証していく。

問 子供達に食の安全を伝えるため、市はどのような方策をとって行くのか、食の乱れに対する対策は。

答 今後の食の情報提供は、北海道や国が発信しているメールマガジン等も活用し、今まで以上に発信。また、総合的な学習の時間に、管理栄養士が講師になり食習慣に向けた実践教育に取り組んでいく。食の乱れに関しては、食育指針を保育所等地域での活用をうながす。

大 栗 民 江
(公明党)

内部障害・内臓疾患者のためのハートプラスマークを

問 障がいや術後の状態により、ふらつきや行動が制限される方もいる。ちよっぴりでいいから障がいの理解が深まることを願って生まれたのがハートプラスマーク。理解の普及の考えは。

答 社会的理解の促進が重要。広報誌等を活用し周知に努める。



ハートプラスマーク普及看板

子育てバリアフリーマップは

問 子育て支援の推進事業の子育てバリアフリーマップの進捗

状況と今後の取り組む考えは。
答 子育てバリアフリーマップは平成21年度作成予定。その際には、市民や関係機関にご協力いただき進める。

高齢者の肺炎予防に肺炎球菌ワクチンの公費助成を

問 高齢者は、風邪やインフルエンザから肺炎を併発し重症化する例も大変多くなっている。本市の死因では、肺炎・気管

支炎は、第3位になっている。肺炎球菌ワクチンは、生涯1回の接種で効果は5年間有効。64市区町村で公費助成に踏み切った。本市は全額自己負担である。肺炎にかかる高齢者を減らし予防医療をすすめるためにも、高齢者の肺炎球菌ワクチン予防接種の公費助成の見解と市民周知の考えは。

答 富良野市の死亡順位の第3位が肺炎によるもので、ほとんどが65歳以上の高齢者で、年齢が増すほど死亡率が高い状況。接種の公費負担は、現在考えていない。富良野医師会の寄稿をいただき広報に掲載、会合に出向いた機会に周知する。